

## 国際協力海外レポート

濱田 昌大（はまだ まさひろ）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：フィリピン共和国 イフガオ州ラガウエ町

職種：コミュニティ開発

赴任期間：2015年7月～2017年7月（予定）



## ○金沢大学と共に実施した活動について

イフガオ州には、日本人が色々な活動を通じて関わっています。文化人類学の研究者が現地の情報収集の一環として配属先の文化遺産事務所を訪ねてきたり、国際 NGO の職員がイフガオで事業のフォローアップを実施したりしています。金沢大学も JICA の草の根技術支援事業「イフガオ里山マイスター」プログラムを実施しており、そんな日本人仲間の一人です。イフガオ里山マイスター・プログラムでは、地域住民であるプログラム受講生自らが研究テーマ（農業や観光、伝統文化など）を考えて、金沢大学のスタッフの助言と協力を得ながら、一年間かけて調査・研究を実施。最終的には、受講生自らが成果発表を行う人材育成事業です。私も、金沢大学のイフガオ里山マイスターを見学させて頂いています。受講生の調査・研究を拝見して、地域住民がどのようなことに関心があり、また農業や観光などを研究テーマにした成果発表会を拝聴して、イフガオについての理解を深めています。



青年海外協力隊による環境ワークショップの様子

そんなご縁もあり、金沢大学の学生インターンシップを文化遺産事務所で受け入れることになりました。学生インターンシップは、8月28日から9月9日にかけて実施され、最初にマニラ首都圏にある JICA フィリピン事務所やアジア・大洋州三井物産株式会社マニラ支店、フィリピン大学オープン・ユニバーシティ、国際稲研究所などを学生が訪問したあと、9月2日からイフガオにやって来ました。

初日には、金沢大学の学生5名と引率スタッフに文化遺産事務所にお越し頂き、文化遺産事務所の活動を紹介したほか、助っ人としてシキホール島の青年海外協力隊員に来てもらい、環境教育ワークショップを実施してもらいました。環境問題と防災は、フィリピンの大きな問題の一つであり、学生には、是非、学んで帰ってもらいたいと考えていたからです。文化遺産事務所は、イフガオ州内の世界文化遺産の棚田郡を保存しているセクションであり、私が活動で関わっている棚田保全基金のプロジェクトなど棚田保全活動を中心に学生に紹介をしました。

2日目には、世界文化遺産に登録されているバタッド村の棚田郡をトレッキングしました。既に何回か、バタッド村の棚田を散策していますが、バタッド村の棚田の奥に潜む大滝には初めて行きました。山の山頂から棚田の中心にある村落まで歩き、さらに歩き続けて大滝を目指しました。片道2時間の長旅。金沢大学の学生の皆さんもハードワークでお疲れの様でした。バタッド村の棚田を制覇した後は、同じく世界文化遺産に登録されているバンガアン村の棚田郡を見に行きました。バンガアン村では、イフガオ州政府、文化遺産事務所のプロジェクトが進行中であり、私も度々バンガアン村を訪問しています。



バタッド村の壮大な棚田を学生と一緒にトレッキング

3 日目には、イフガオ州都ラガウエ町のバンハンラン村に行き、村落を取り囲んでいる石垣を学生と一緒に修復しました。バンハンラム村は、一説では 1400 年前から建設が始まったと言われています。バンハンラン村の本来の景観を取り戻すべく、文化遺産事務所のプロジェクトとして、壊れている石垣の補修を実施しており、学生に石垣の補修を手伝ってもらいました。学生の皆さん、村人に教えてもらいながら、一生懸命、石垣を修復していました。実は、インターンシップを実施した1年ほど前、イフガオ里山マイスター・プログラムの実施の合間を見ながら、金沢大学のスタッフと一緒に、バンハンラン村を視察していました。その意味では、今回のバンハンラン村でのインターンシップは、伏線があったということです。



バンハンラン村の住民と力を合わせながら、学生が村落の石垣を補修



石垣の補修。村落を棚田が取り囲んでいる。

これらのインターンシップを踏まえて、イフガオ里山マイスター・プログラムを実施しているイフガオ州立大学の講堂をお借りして、学生による成果発表会が実施されました。学生にとっては、とても良い経験になったと思います。イフガオには、短い滞在期間となりましたが、若い感受性を活かして、多くのことを学べたと思います。青年海外協力隊は、日本に帰国後、日本国内での国際理解や国際交流などの活動を通じて、社会還元が期待されています。それとの関連で言えば、日本を飛び出して海外で活動する学生などを現地でサポートするのも、社会還元の一つになりそうです。